

## 特別展示 「桃山の茶陶－備前と信楽－」によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

京都市考古資料館では、平成26年度京都市考古資料館前期特別展示として、「桃山の茶陶－備前と信楽－」を開催しております。

今回の特別展示では、平成26年3月31日に京都市有形文化財（考古資料）に指定された、京都市中京区三条通御幸町西入弁慶石町から出土した江戸時代初期（17世紀初め頃）の陶磁器が中心です。

弁慶石町西側に位置する下白山町・福長町・中之町からも江戸時代初期の陶磁器が出土しており、三条通沿いのわずかな範囲に類似する遺跡が集中しています。江戸時代初期に描かれた『京都図屏風』や『寛永平安町古図』には、中之町の位置に「せと物や町」の記載があり、「焼物（瀬戸物）」を取り扱う商家が集まっていたことが、遺跡からも明らかとなりました。出土した陶磁器の多くは、茶事・茶会で使用される陶磁器＝茶陶であることが大きな特徴です。平成24年には、弁慶石町に先立って、

中之町から出土した茶陶が京都市有形文化財（考古資料）に指定されており、京都市考古資料館では、特別展示「ひょうげた器－三条せともの屋出土茶陶－」を開催して中之町の茶陶を紹介いたしました。

弁慶石町から出土した茶陶は、備前（岡山県）・信楽（滋賀県）で製作された、釉薬を掛けずに高温



弁慶石町出土の茶陶（京都市指定文化財）

で焼成した焼締陶器が多くを占め、器形には茶碗・皿・鉢・水指・建水・花生などがあります。美濃（岐阜県）・瀬戸（愛知県）で製作された釉薬を掛けた陶器も含まれていますが、黄瀬戸・瀬戸黒・志野などで、多量の織部が出土した中之町の茶陶とは組成・意匠が大きく異なります。



調査位置図



黄瀬戸（向付）・志野（皿）・灰釉（皿・鉢）



瀬戸黒（茶碗）・志野（茶碗）



信楽（花生）



備前（椀・皿）



信楽（水指）



備前（茶碗・水指・建水・すり鉢）

弁慶石町出土の茶陶（京都市指定文化財）

展示では、三条通沿いから出土した茶陶と合わせて、洛中洛外の遺跡から出土した茶陶やすり鉢などの日用品も含む備前・信楽・丹

波（兵庫県）の焼締陶器を陳列しています。また、茶陶を生産した備前・信楽・美濃の窯跡や、茶陶が出土した洛中洛外の遺跡を写真

パネルで紹介しています。「ひょうげた器」とは、また、趣が異なった桃山文化の茶陶の粋をお楽しみください。（山本雅和）